

宮城県看護連盟年表

年号	宮城県看護連盟	日本看護連盟	政治・社会の動き
昭和34年 (1959年)		看護協会総会で政治活動のできる団体を作るなど議決 特別委員会として「日本看護連盟設立準備委員会」発足 日本看護連盟設立 初代会長 林塩 就任 日本看護連盟は日本看護協会の目的達成するために、必要に応じて政治活動を行うことを目的とした	看護婦不足表面化
昭和35年 (1960年)		日本看護連盟結成大会（第1回総会）於東京 機関紙「連盟通信」創刊号発行	病院スト全国的に波及 看護婦の処遇の改善と病院管理の不合理の是正を厚生大臣に陳情
昭和36年 (1961年)	連盟支部結成（12月） 初代支部長 久光なみ子 金沢フミ（相談役） 事務所は自宅か勤務場所（労災病院）	連盟総会開催（静岡） 第6回参議院選に林塩協会長を組織代表とすることに決定 「林塩はげます会」結成	勤務時間48時間から44時間に改善
昭和37年 (1962年)	支部長 久光なみ子 小池ノブ（相談役） 「支部連盟新聞」創刊号発行	連盟総会開催（東京日本大学講堂） 中央選挙対策本部設置 本部長 浅野花子 就任 第6回参議院選挙 林 塩 当選 518, 795票	看護婦不足問題深刻化
昭和38年 (1963年)	支部長 小池ノブ	連盟総会開催（新潟市体育館） 連盟会費昭和39年より500円に決定 連盟は選挙のためだけの存在かという疑問に応え座談会を開催し「統一見解」としてまとめる	厚生省に看護課復活 看護課長に 水野貞 就任 協会と合同で全国一斉に看護婦は静脈注射を行わない統一運動を展開

年 号	宮城県看護連盟	日本看護連盟	政治・社会の動き
昭和39年 (1964年)	支部長 小池ノブ	連盟総会開催（東京日本 大学講堂） 第8回参議院選に石本茂 看護婦会会長を組織代表 とすることに決定	
昭和40年 (1965年)	支部長 小池ノブ 齋田トキ子（相談役） 「日本看護協会看護婦 部会宮城県支部長」	連盟総会開催（長崎市公 会堂） 「石本しげる」後援会結成 中央選挙対策本部設置 本部長 林 塩 就任 第7回参議院選挙 石本茂 当選 439, 909票 第1回連盟看護研究会開 催（3日間）	看護教員養成費の新設 国会に看護職2議席占め る 人事院判定複数夜勤月8 日以内
昭和41年 (1966年)	支部長 小池ノブ	連盟総会開催（東京日本 大学講堂） 連盟規約について協会と 合同支部長会を開催	
昭和42年 (1967年)	支部長 小池ノブ	連盟臨時総会開催（大阪 中央体育館） 連盟規約改正案可決 連盟会長を本部長と改称 本部長 須古都 就任 連盟総会開催（大阪中央 体育館） 第8回参議院選に石本茂 を組織代表とすることに 決定	
昭和43年 (1968年)	支部長 小池ノブ	連盟総会開催（東京） 第8回参議院選挙 石本茂 落選 448, 409票 林塩自民党公認で立候 補し落選 293, 930票 全国支部長会開催 敗因について検討 政治意識を高める目的で 第1回活動者講習会開催 会員の政治意識に関する アンケート調査実施	協会員増員、待遇改善、 制度改善の3項目の実現 を目指して全国一斉街頭 署名運動を展開 (87万7, 79人の署名簿を 厚生大臣に提出)

年号	宮城県看護連盟	日本看護連盟	政治・社会の動き
昭和44年 (1969年)	支部長 小池ノブ	連盟総会開催(愛知県 体育館) 協会、連盟主催「健康守 る看護大会」開催(東京 久保講堂) 連盟規約一部改正 本部長を会長と改称 会長 水野しづ 就任 第9回参議院選に石本茂 を組織代表とすることに 決定 初の地区別支部長会、研 修会開催	参議院労働委員会が看護 職員の不足対策に関する 決議を採択 夜間看護手当 100円→200円となる
昭和45年 (1970年)	支部長 小池ノブ	連盟総会開催(東京一ツ 橋共立講堂) *初めて連盟独自の総会 会長 関光 就任 石本しげる後援会結成 創立10周年記念式典挙 行 臨時総会開催(大田区体 育館) 石本茂候補の自由民主党 入党を承認	厚生省の「高卒+1年」の 准看護婦養成案に対して 自民党看護婦対策小委員 会と厚生省に賛成できな い旨要望
昭和46年 (1971年)	支部長 小池ノブ	連盟総会開催(広島市県 立体育館) 「日本看護連盟の歌」決定 柴田キヨ子作詞、白石十四男作曲 石本茂総決起大会開催 第9回参議院選挙 石本茂 当選 547, 283票	保助看法一部改定 看護人→看護師に改称 石本議員、自民党入党し て最初の予算案において 看護関係予算47%アップ 47年度より看護教育機 関の運営補助、夜間看護手 当の支給など実現
昭和47年 (1972年)	支部長 佐藤歌子	連盟総会開催(東京) 以後、東京開催 連盟総会を協会と切り離 し独自の開催について審 議 総合役員会開催(中央委 員11名地区委員9名)連盟 の基本的性格、次期参院 選の候補者について討議	自民党内に看護問題対策 特別委員会発足 委員長 山下春江 副委員長 石本茂 就任

年号	宮城県看護連盟	日本看護連盟	政治・社会の動き
昭和48年 (1973年)	支部長 佐藤歌子	連盟総会開催（東京） 第10回参議院選の候補者なしと決定 「国民の健康を守る看護大会」開催 国家予算編成にあたり継続的な陳情活動を展開 連盟の基本的性格についてアンケート調査実施	夜間看護手当 350円→1,000円となる 自民党内に看護技術者対策議員連盟設置 会長 大橋武夫 就任 事務局長 石本茂 就任 石本茂議員 厚生政務次官 就任
昭和49年 (1974年)	支部長 佐藤歌子	連盟総会開催（東京） 石本茂議員厚生政務次官就任祝賀会、看護連盟決起大会開催 第10回参議院選の推薦候補者として自民党候補丸茂重貞、山下春江、横山フクの3氏を決定 第10回参議院選挙 丸茂重貞 当選 山下春江、横山フク落選	院内保育所設置
昭和50年 (1975年)	支部長 佐藤歌子 県看護研修センターに事務所入居	連盟総会開催（東京） 創立15周年記念式典挙行 第11回参議院選に石本茂を組織代表とすることに決定 「連盟小史-15年の歩み」刊行 会費値上げ 500円→1,000円 石本しげる後援会結成 後援会長 四ヶ所ヨシ 就任	育児休業法、専修学校法成立
昭和51年 (1976年)	支部長 佐藤歌子 (会員 1,069名)	連盟総会開催（東京） 准看護婦養成廃止総決起大会 （東京青年館） 規約の一部改正、政治団体として独自の規約となる 「石本しげるを励ます・わかばパーティー」開催	白衣のデモ行進 45万人分の署名を衆、参議長に提出 石本茂議員 再度厚生政務次官 就任

年号	宮城県看護連盟	日本看護連盟	政治・社会の動き
昭和52年 (1977年)	支部長 佐藤歌子 (会員 956名)	連盟総会開催(東京) 政治意識に関するアンケート調査実施 「看護連盟意識調査報告書」発行 第11回参議院選挙 石本茂 当選 651, 553票	国立看護研修センター設立 夜勤看護職員の車送りの予算化 労働基準法の特例廃止
昭和53年 (1978年)	支部長 佐藤歌子 (会員 937名)	連盟総会開催(東京) 支部リーダー全国研修会開催 第12回参議院選に寺沼幸子書記長を組織代表とすることに決定 会費値上げ 1,000円→1,500円	保健婦の増員
昭和54年 (1979年)	支部長 松本千代子 齋田トキ子(顧問) 森 さよ(顧問) 佐藤 歌子(顧問) (会員 891名)	連盟総会開催(東京) 寺沼幸子後援会結成 会長 山口良泰 就任	旧陸海軍看護婦に日赤看護婦同様恩給を支給する法案が可決成立
昭和55年 (1980年)	支部長 松本千代子 齋田トキ子(顧問) 連盟支部だより創刊 (会員 1,007名)	連盟総会開催(東京) 第12回参議院選挙 寺沼幸子 落選 527, 066票	衆、参同日選挙で自民党圧勝
昭和56年 (1981年)	支部長 松本千代子 齋田トキ子(顧問) 規約作成 (会員 1,028名)	連盟総会開催(東京) 関 光会長 勇退 新会長に 宮田父代子 就任 創立20周年記念式典挙行 第13回参議院選に石本茂顧問を組織代表とすることに決定 石本茂後援会結成 会長 小倉一春 就任 「連盟小史-20年の歩み」刊行 全国支部長会開催 初の協会、連盟合同地区別支部長会開催	

年号	宮城県看護連盟	日本看護連盟	政治・社会の動き
昭和57年 (1982年)	支部長 松本千代子 齋田トキ子 (顧問) (会員 1,073名)	連盟総会開催 (東京) 自民党看護連盟職域支部46府県 結成 (東京、静岡のぞく) 会費値上げ 1,500円→2,500円 関光 前会長を連盟顧問 とすることに決定 協会、連盟合同全国支部 長会開催 (以後毎年開催)	参議院全国区が比例代表 制となる 「自民党看護連盟職域支 部全国協議会」結成 会長 石本茂議員 就任 老人保健法公布
昭和58年 (1983年)	齋田トキ子 (顧問) 須藤正夫 (顧問: 県会議員) (会員 1,101名)	連盟総会開催 (東京) 自民党発行の「りぶる」 の購読者拡大で全国一 の成績をあげ中曽根総裁 より感謝状受ける 第13回参議院選挙 石本茂 当選 自由民主党比例代表 登載名簿13位	石本茂議員 参院社会労働委員会 委員長 就任 自民党社会部看護問題小 委員会 (委員長 石本 議員) において看護学校 副校長に看護職を起用す ることについて要望 比例代表制導入
昭和59年 (1984年)	支部長 藤島キシ 須藤正夫 (顧問: 県会議員) 齋田トキ子 (相談役) (会員 1,072名)	連盟総会開催 (東京) 副会長に杉谷藤子 (協会 常任現職) が就任 連盟会員11万名突破 対協会比率40.4%	看護対策予算の確保につ いて陳情 3看護学校に看護職によ る副学長の設置が決定 9月を「老人看護月間」に 設定 石本茂議員 国務大臣環境庁 長官 就任
昭和60年 (1985年)	支部長 藤島キシ 須藤正夫 (顧問) (会員 1,085名)	連盟総会開催 (東京) 創立25周年記念式典举行 「連盟小史-25年の歩み」 刊行 第14回参議院選に清水嘉 与子前厚生省看護課長を 組織代表とすることに 決定	環境庁の呼びかけに応じ て「自然に触れることの 少ない都会の母と子のた めの森づくり基金」に全 国の協会、連盟合わせて 2,000万円を石本茂長官 に手渡した
昭和61年 (1986年)	支部長 藤島キシ (自民党県連婦人部幹事) 須藤正夫 (顧問) (会員 1,061名)	連盟総会開催 (東京) 連盟組織検討委員会設置 (協会連盟合同) 第14回参議院選挙 清水嘉与子 落選 比例23位	石本茂議員 勲一等瑞宝章を受章

年 号	宮城県看護連盟	日本看護連盟	政治・社会の動き
昭和62年 (1987年)	熊野二三江 (監事) (会員 1,006名)	連盟総会開催 (東京) 日本看護協会会長が連盟会 長を兼任 新会長に 大森文子 就任 青年会員を対象に野外研 修会を実施 (4泊5日) 中央研修会実施 (2泊3日)	統一選挙 自民党退潮
昭和63年 (1988年)	支部長 吉田ますよ (会員 1,035名)	連盟総会開催 (東京) 清水かよ子後援会結成 会長 石本茂 就任 中央研修会実施 (2泊3日)	大森文子 (元連盟会長) 勲三等瑞宝章を受章
平成元年 (1989年)	支部長 吉田ますよ (会員 1,015名)	連盟総会開催 (東京) 標語入選者表彰 清水かよ子必勝総決起大 会開催 石本茂議員24年間の参議 院議員を引退 石本茂議員に対して「感 謝の集い」開催 第15回参議院選挙 清水嘉与子 当選 自由民主党比例代表 登載名簿1位	清水嘉与子 自民党社会部会看護 問題小委員会会長 就任 自民党敗北与野党逆転と なる (140議席から109 議席)
平成2年 (1990年)	支部長 吉田ますよ 佐藤君子 (顧問) (会員 1,047名)	連盟総会開催 (東京) 創立30周年記念式典挙 行	看護問題小委員会で看護 の日制定、処遇改善等陳 情 厚生省は5月12日を「看 護の日」「看護週間」 制定 夜間看護手当で3,200円 に増額
平成3年 (1991年)	支部長 吉田ますよ	連盟総会開催 (東京) 新会長 有田幸子 就任 清水嘉与子議員、若手国 會議員と夜間看護の実態 調査	看護職員確保対策費決定 国家公務員看護部長7級 新設 大森文子 (元連盟会長) フローレンスナイチンゲール 記章受章

年号	宮城県看護連盟	日本看護連盟	政治・社会の動き
平成3年 (1991年)	(会員 1,107名)	「第1回 看護の日」 皇后陛下ご臨席のもと開催 第16回参議院選に南野知恵子を組織代表とすることに決定	
平成4年 (1992年)	支部長 吉田ますよ (会員 1,089名)	連盟総会開催 (東京) 第16回参議院選挙 南野知恵子 当選 自由民主党比例代表 登載名簿16位 看護技術者対策議員連盟で「看護問題の改善をめざして」小冊子作成	清水嘉与子議員 労働政務次官 就任 「看護婦等人材確保法案」施行
平成5年 (1993年)	支部長 吉田ますよ 第56回自民党大会で優秀党組織として感謝状を授賞 (会員 1,082名)	連盟総会開催 (東京) 有田会長勇退 新会長 見藤隆子協会長 就任 会費値上げ 2,500円→5,000円 第17回参議院選に清水嘉与子を組織代表とすることに決定 中央研修会開催	有田幸子会長 フローレンスナイチンゲール 記章受章 「保健婦助産婦看護婦法一部改正案」衆議院で可決成立。男子にも保健婦国家試験受験資格が付与され保健士の名称で業務ができることとなる
平成6年 (1994年)	支部長 吉田ますよ (会員 1,036名)	連盟総会開催 (東京) 「清水嘉与子を国政へ」 決起大会開催	都道府県ナースセンターに電算機導入 保健士国家試験合格発表 (受験93名中67名合格) 清水嘉与子議員 自由民主党女性総局女性団体対策局長、参議院厚生委員会理事 就任 南野知恵子議員 参議院自由民主党副幹事長、参議院文教委員会理事 就任
平成7年 (1995年)	支部長 吉田ますよ	連盟総会開催 (東京) 新会長 臼杵久子前副会長 就任 阪神・淡路大震災被害者への義援金募集開始 中央研修会開催	看護婦国家試験合格発表 9月→3月 平成8年度予算で夜間看護手当改善 準夜2,900円、深夜3,300円、交替夜勤6,800円

年 号	宮城県看護連盟	日本看護連盟	政治・社会の動き
平成7年 (1995年)	第59回自民党大会で友好 団体として表彰 (会員 1,023名)	第17回参議院選挙 清水嘉与子 当選 自由民主党比例代表 登載名簿7位 連盟会長の諮問により連 盟組織の見直しをはかる ため特別委員会設置	看護大学構想検討費、准 看護婦問題調査検討費等 の予算化 高齢社会対策基本法成立 優生保護法一部改正 清水嘉与子議員 自由民主党総務会総務 就任 南野知恵子議員 参議院厚生委員会理事 、労働政務次官 就任 有田幸子(顧問) 勲三等瑞宝章を受章
平成8年 (1996年)	 (会員 1,052名)	連盟総会開催(東京) 創立35周年記念式典挙 行 第18回参議院選に南野知 恵子を組織代表とするこ に決定 中央研修会開催 第41回衆議院選挙 能勢和子 当選 中国ブロック 自由民主党比例 1位	産業保健婦誕生 労働省の外郭団体に看護 職のポスト創設 厚生省の「准看護師問題 調査検討会」の実態調査 結果公表 療養型病床群病棟に勤務 する看護補助者に介護福 祉国家試験資格を与える (3年間の経験が条件) 優生保護法が母子保健法 に改正 清水嘉与子議員 参議院文教委員長に 就任 南野知恵子議員 「看護問題小委員会」 委員長 就任
平成9年 (1997年)	支部長 千葉和子 (会員 1,023名)	連盟総会開催(東京) 看護部長を対象とした中 央研修会開催	日本看護協会「准看護師 養成停止を求める集い」 開催、終了後厚生大臣に 、准看護師から看護師へ の移行教育を審議する検 討会を早急に求める要望 書を提出(清水・南野・ 協会・連盟役員) 介護保険法成立